

2025(令和7)年

号5月

団んぽに水が入り、カエルの大合唱が始まった。
「カエルのうた」の100倍ぐらいだ。

shin kuu

心耕

しんこう

西光寺々報

今月の行事

十二日(月)はじめの一步

午後一時 - 仏教の基礎を学びます

二十五日(日)日曜法座

午後一時 - 法話(住友)

築地本願寺降誕会ツアー

二十一日 申し込みは十二日まで

勉強会 壮年会休み

婦人会 十二日 十時 -

写経会 九日(金) 午後一時 -

草取り 十一日(日) 午前十時 -

寺カス(バザ) 十八日(日) 午後十時 -

ヨガ 毎週火曜 午後一時 -

毎朝の勤行 午前六時半 -

会費納入録について

先月配付した納入録は、手渡しの方は、

お使い下さい。振込の方は、こちらで作成し、

次の心耕と共に送ります。郵送の必要は、ありません。

「なんで?」「なんで?」

子どもから時々ある攻殻手

だ。先日、ある葬儀で、三才の

女の子から質問があった。

「何で満気になるの?」

「何で死んじゃうの?」

「コワイ……」

三才の子に答えるのはかなり

難しい。私はこう答えた。

「何で満気になるのかは、答える

のは難しい。何で死ぬかと言われ

れば、生まれてきたからとしか言

いようがない。だけど、君の心は

あはは死んじゃうくらいいつか満気

だったんだ。もう苦しまなくていいん

だ。あうける苦しみのない仏様に

なつて、今生きている君を応援し

ている。恥からなくていいんだ」と。

わかりにくくてすみません。

ナニニカテ
在住処

各種ご案内

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々の参り、命日などにお参り下さい。

正信偈の読み方と皆様のアンケートをもとに三島さんが話します。初めての方もうぞぞ！

日曜法座

向こうから私のところへ
いつも来ているはたらきです」

今月の法語カレンダーをもとに住職が法話をします。

十一日（日）八時～九時 できる範囲で

九日(金) 十三時～十五時 どなたでも

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 五月休み 六月は四日

婦人会 十一日(月) 十時～

●youtube 西光寺チャンネル新作配信！

新作仏教紙芝居を配信。他にも節談やアニメ、読経を上げています。QRからどうぞ！

・はじめてのヨガ

毎週火曜日(祝日休) 十三時〜 毎回千円
ヨガマツト持参 予約不要 *六日休

[illegible]

内容 「楽しい手話体験と講談」

講師 桂五郎梅師

日時 十八日(日) 十時～十二時半

昼食付 大人五〇〇円 子ども無料

予約制 お寺まで 締切 十七日

・築地本願寺ツアー申込は十二日まで

二十一日の築地本願寺へ団体参拝をします。西光寺八時三〇分出發です。会費は三千円、昼食付　ご希望の方はお寺まで早めに連絡を

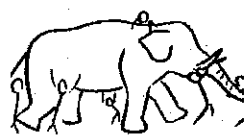
バザー用品受付中！

十八日寺カフエ中にバザーも開催します。売り上げは災害支援金に致します。未使用品等ございましたら、西光寺までお持ちください。できれば値段も決めて…

郡盲象を評す

インド発祥の寓話で、形は違えど世界中に広まっている物語です。

大臣と一緒にいた王様が、十人の目の見えない人々を呼びました。そして、それぞれに象を触らせて、これは何かを聞いたのです。すると、象の鼻を触った人は輿の轅（牛車などの車引きがつかむ棒）、牙を杵、耳を箕（穀物の選別に使う農具）、頭を鼎（三本足の器）、腹を壁、背中を丘、前足を臼、後ろ足を樹、膝を柱、尾を蛇とそれぞれに答えました。すると、大臣は目の見えない人々をあざけり笑ったのです。王様はそれをたしなめます。そして、人は物の一部しか見えず、それに固執すると真実を見誤ることを伝え、仏法の見方が必要であると諭したのです。



我々が見ていることは、あるものの一部分でしかありません。一部分しか見えていないのにわかったような顔をして他を貶めてはならないのです。わからないことに気づかされ、他の見えていない世界を知らされると世界は広がります。

そんなに怒りな
さんな、みんな
初心者だ、たん
だから 名作

こんなところに

仏教用語

用教仏近
語介紹
して
います。

仮

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどま

りたるためしなし。世中にある人と栖と、又かくのごとし。

『方丈記』の冒頭です。古文で習われた方も多いのではないのでしょうか。川の水は、常に流れていて留まることがないことを、無常の譬えとして用いています。

世の中すべて無常で常に動いているのですが、「仮」に、この世界は成り立っていると仏教は世界を見ていくのです。

仏教は、我々が見ている物、私自身も含めてあくまで「仮」に出来ていると考えるのです。水は常にうごめいているけれども、仮に「川」と設定するのです。

また、この世界は私の認識で「仮」にできているともいうのです。

私の認識でできているから、同じ味噌汁でも人によって濃いと感じたり薄いと感じるのです。人によって認識が違うから、同じことをしてもストレスを感じる人がいたり、発散になったりする人もするのです。

ということは、認識を変えていくことで「仮」



のこの世界は変わるのです。ここがなかなか難しく、だからこそ阿弥陀仏は立ち上がられたのです。

講堂宝池眷属 『大經』三十六

この部分は前段の後半から語られる道場樹の七宝による莊嚴をうけて、「講堂精舍宮殿樓觀みな七宝莊嚴して自然に化成す」と三十二願が成就して、池の莊嚴が始まります。池と言つても日本人が想像する池ではなく、プールの四辺んが階段状に成っている沐浴をする場所です。七宝で飾られ八功德水が注がれています。親鸞聖人は莊嚴についてはあまり語ることは有りませんが、和讃に「七宝宝池いさぎよく八功德水みちみteri 無漏の依果不思議なり 功德藏を帰命せよ」とちよつと触れています。

次に「自然の妙声しねんその所応しゆいに随したがいて聞きこえざるものなし南無阿弥陀仏 聞其名号 かな 信心歡喜 色々な声しやうを羅列られつくその聞きこくところに称ないて歡喜くわんぎすること無量なり」と七願と四十六願が重ねて成就します。

「三途苦難の名あることなく、ただ自然快樂こえの音おとのみあり。このゆえにその国を名づけて安樂あんらくという」と十六願が成就します。前の歡喜が自然快樂の音おとのみに係かつています。のみが大切なキーと成っています。この部分を和讃では「三途苦難ながくとじ 但有たんに自然快樂音 このゆえ安樂となづけたり 無極尊を帰命せよ」と謳うたわれています。この後、三願四願が成就すると共に三十一願三十二願

及び三十八願が成就していきます。この部分は『教行信証』の証卷に引文されている部分で親鸞聖人が大変重要視した部分です。また『浄土論註』の器世間莊嚴の中で「莊嚴眷属功德成就」の説明の中で「これいかんが不思議なる。『四生を説明く眷属たぐさんそこばくなり』かの安樂国土はこれ阿弥陀如来正覺淨華の化生するところにあらざるはなし。同一に念仏して別の道なきがゆゑなり。遠く通ずるにそれ四海のうちみな兄弟たり。眷属無量なり。いづくんぞ思議すべきや」と言われている箇所でもあり真仏土卷しめのべにも引文いんもんしています。また蓮如上人が指定した葬儀の時に称えられる和讃「本願力にあひぬればむなくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて煩惱の濁水へだてなし」「如来淨華の聖衆は正覺のはなより化生して衆生の願樂がんぎようことごとくすみやかにとく満足す」でもあります。また曇鸞讃では「安樂仏国にいたるには無上宝珠の名号と 眞実信心ひとつにて 無別道故とときたまふ」と謳うたわれています。念仏以外に別の方法はないと言う事でしょう。この眷属章は事細かに言葉を尽くして説明している箇所です。そして最後に三十九願の「常受快樂」という滅尽三昧で終わります。

住職多感

桜の話であふれていたが、散ってしまつて次々と色んな花が咲き始めた。シャクヤク・テッセン、一輪だけどツバキ。他にもあるが名がさつと出てこないので省略。皆色鮮やかである。雉の声も聞こえる。燕も帰ってきている。雨蛙も鳴いている。賑やかな春が来た。もう直ぐ田んぼに水が入る。

十六日(四月)、第一回御命日法座を午

前八時から開いた。自分が何をやりたいのか自己確認のための法座であつたから殆んど誰にも連絡はしていない。約四十分、一人で話した。不思議なもので有り難かつた。五井に来て以来、布教所・西光寺の活動を支えて下さった多くの門徒衆、名は出さないが一人一人の姿・面影が本堂を埋め尽くしている。故人であり、運ぶ足を失つた人であり、遠くに住んで通えない人であ

ったりする人ばかりである。みんな笑顔である。だが厳しい。「嘘言っちゃあいかなぜ。本当のことを、これからは特に話してくれん」と。

第二回は五月十五日、時間は同じ。槃特IIを始めていく。書いたものの不備を確認するための法座。書いたものは用意しているので遠慮なく聞きに来てほしい。そして不審なことは尋ねてほしい。

一見すれば何もない、という布教所に集まってくれて、全国各地の門徒衆の伝統を引き継ぎ、市原に手を合わせる美しさ、念仏を称えることの喜びを、豊かさを伝えようと努力してくださった門徒衆。その心をしっかりと受け継ぎたい。

毎朝お勤めをしている。阿弥陀仏の木像の前である。木像を作って下さったのは吉本さんだ。他者にも自己にも【いい加減】を許さなかった人だ。やさしかった。

六月の行事

・八日 草取り

・十二日 勉強会・はじめの一步

・十三日 写経会

・十五日 寺力フェ

・二十、二十一日 永代経法要

・二十二日 物故者追悼法要

・ヨガ 毎週火曜

・お朝事 毎朝

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇—〇〇二四

千葉県市原市根田

七二三—一



TEL : 0436-22-7412

FAX : 0436-24-1652

HP : <https://www.saikohji.net>

MAIL : saikohji@saikohji.net